



## 落水がまだのほ場は、直ちに中干し！ 生育量に応じた食味重視の穂肥を！

### ◎ 生育概況

「雪若丸」の6月30日現在の県全域の生育は、平年に比べて草丈・茎数・葉数は並み、葉色はやや淡い状況です。庄内は内陸に比べて生育量が多い傾向にあります。

平坦部「雪若丸」の生育（6月30日）

項目	調査値	平年値	平年比・差
草丈	42.0 cm	41.4 cm	101 並み
茎数	718 本/m <sup>2</sup>	700 本/m <sup>2</sup>	102 並み
葉数	9.6 枚	9.6 枚	0 並み
葉色 (SPAD)	44.4	45.7	-1.3 やや淡い

※各農業技術普及課の調査結果を平均した値

### ◎ 技術対策

#### ・中干しは作溝と合わせて効率的に！

落水がまだのほ場は、直ちに中干しを行い、無効分げつの抑制と根の活力向上を図ります。生育量が大きい場合や葉色が濃い場合は強めに中干しを行います。葉色が40未満に低下しないように注意しましょう。

#### ・穂肥は生育に応じた量を、遅れずに！

穂肥は出穂25日前、窒素成分は1.5kg/10aを基本とします。穂肥の時期が遅れたり、施用量が多いと整粒歩合が低下し、玄米粗タンパク質含有率が高まります。穂肥は下表を参考にして、遅れずに適量施用しましょう。また、6月中に窒素肥料を補完施用した場合は減肥しましょう。

生育量	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 (SPAD)	追肥対応※
適正	560~750	40~44	出穂25日前、窒素成分1.5kg/10a
生育不足	560未満	40未満	早めに追肥する
生育過剰	750以上	44以上	追肥量を減らす

※6月中に窒素肥料を補完施用した場合は減肥する

- ・斑点米カメムシ類の発生密度減らすために、畦畔の草刈りは7月中旬までに終わらしましょう。
- ・いもち病の早期発見に努めて発生初期に防除しましょう！